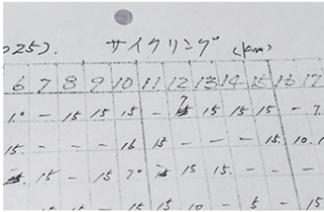




88歳になる元気な江藤さんに再会

令和4(2022)年1月号で紹介した、江藤秀樹さんに再会。今から3年前のこと。「毎朝6時半にラジオ体操をして、それから歩いて、夕方には自転車をこぐのが日課」と



上：江藤さんが毎日つけている記録帳。下：江藤さんの庭の畑にはスイカが実っていました

お久しぶりです 江藤さん

雨に降られた東無田八幡宮の境内に咲くアジサイの花。そのしつとりとチーズを置いてさらに蒸し焼きに。このレシピは、紘一さんも大好きな晩酌のアテの一つだそうです。そんな2人が出会ったのは今から57年前。熊本市内で葉タバコを栽培する農家に生まれたカク子さんに、知り合いから紹介された紘一さんが一目ぼれしたそう。「なーんも、そんがんこつは書きなすなよ。でけん、熟なつたたい」と照れる紘一さんは新聞紙を手に取り、パタパタと顔をおおぎました。

また江藤さんは長年、ハーモニカ演奏のボランティアを続けています。「30年近くやってます。現在、832回目」とこれまで訪れた施設名、場所、日付、担当者名などパソコンに全て記録しているそうです。「ところでね、印刷機のインク交換ができんとたい。壊れたのかなあ」と困り顔の江藤さんに書齋に案内された筆者。あーでもこーでもな

話してくれた江藤さんは今も毎日、その規則正しい生活を続けていると聞いてびっくり。そしてもう一つの日課が、3つの記録。まずラジオ体操参加者数、そしてウォーキングの歩数、さらにサイクリングの距離。自ら作成したそれぞれの記録用紙に、毎日欠かさず数字を記入しているそうです。「数字をつけると『明日もまたがんばろう』という気持ちになるとです。それが元気の秘訣かな」と江藤さん。

御三家VS新御三家

東無田八幡宮の境内にある公民館から、何やら楽しそうな音楽とにぎやかな声が聞こえてきます。のぞいてみると、地域の女性たちがミニトランポリンを使って足踏みしたりダンスをするエクササイズを楽しんでいました。「楽しく体を動かした後は、気持ち元気がになります」と皆さん口をそろえます。メンバーは80代、70代、60代と、年齢差を



上：トランポリンの上での運動が体幹を鍛えるそうです。下：公民館でトランポリンを楽しむ皆さん。前列左から木村葉子さん、緒方睦子さん、堀川カク子さん、後列左から宮崎いく子さん、堀川和歌子さん

感じさせない親しげな付き合いが育まれていました。ただし好きなテレビ番組は「人生、歌がある」派と「続・続・最後から2番目の恋」(6月放送終了)派に分かれました。話は弾みアイドル編へと突入。元祖「御三家(橋幸夫・舟木一夫・西郷輝彦)」時代の先輩組(写真前列)は舟木派と西郷派に割れ、「私たちは新御三家(郷ひろみ・西城秀樹・野口五郎)だけ」と胸を張る後輩組は西城秀樹推しで一致。しかしこのささやかな対立も、今どきの若者からみたら「どっちもどっち」というところでしょうか。

移住して17年 すっかり地元の人

境内の近くに暮らす藤本哲成さん



上：東無田のシンボリックな場所、東無田八幡宮
下：境内にはアジサイが鮮やかに咲いていました

そんな哲成さんは去年から、同地区の堀川紘一さんの米作りを手伝い始めました。「将来、リタイアされた人たちの田んぼを引き受けられたらと、いろいろと学ばせてもらっています。先日種まきをして、そろそろ苗が育っている頃です」と、楽しみだといわんばかりの笑顔を見せました。

頬が熱くなった理由

哲成さんの米作りの師匠・堀川紘一さんを訪ねました。そして、過日に種まきをしたという稲苗は青々



上：藤本さん宅の庭の手作りのプランコ。右：藤本さんと次女の梨花さん、そして愛犬のラテ



今回で3度目となる東無田地区のぶらり散歩。訪れた日は、ちょうど梅雨期のど真ん中でしたが、出会う人たちの温かさにも心も晴れと。皆さんの楽しいエピソードを、たくさん聞かせてもらいました。



上：笑顔が温かい紘一さんとカク子さん夫婦
右上：田植え前の稲苗もりっぱに。その向こうに広がるカク子さんの野菜畑。右：カク子さんが教えてくれたズッキーニ料理



vol.49
ひがしむた
東無田編

